# ビンゴで九九をマスターしよう

| 単　　元 | **かけざん（１），（２），九九のきまり** | 対象学年 | ２　年 |
|---|---|---|---|
| ね　ら　い | ビンゴゲームという遊びの要素を取り入れることで，たのしく九九を覚えることができるようにする。 | | |

**１　準備するもの**

教師：　ビンゴカード（３×３マス）児童分，拡大したビンゴカード
　　フラッシュカード（表に九九，裏に九九の答えの書かれたもの）
　　※３学期の学習「九九のきまり」で活用する場合，４×４，５×５マスでもよい。

**２　学習のしかた**

（１）ビンゴカードに九九の答え，または式をかく。
（２）フラッシュカードに書かれた九九を唱えながらビンゴカードに対応する数字や式に色を塗っていく。
（３）数回繰り返し，いくつビンゴができたかを数えさせる。

**３　活用例**

**１．〇の段の九九の習得**

㋐　第１段階
・〇の段の九九の答えをビンゴのマスにうめていく。（教科書を見てもよい）
・教師がフラッシュカードを出す。それに呼応して児童が九九と答えを言いながらビンゴカードのマスを塗りつぶしていく。

㋑　第２段階
・〇の段の九九の答えをビンゴのマスにうめていく。（なるべく何も見ないで）
・教師が「六四」と言いながらフラッシュカードを出し，テンポよく「２４」と言いながらカードのマスを塗りつぶす。

㋒　第３段階
・〇の段の九九の式をビンゴカードに書いていく。
・教師が九九の答えを言い，その答えに当てはまる式を探し，塗りつぶす。

**２．九九のきまりをつかって（３×３，または５×５マスで行うとよい）**

・マスに九九の答えになる数を当てはめて入れていく。
・教師の提示したフラッシュカードの答えに当てはまるマスを塗りつぶす。
・誰かが２ビンゴほどしたら終了とする。
・その後，「早くビンゴをするにはどうしたらよいのか。」と問いかけ，子供に考えさせながらもう一度ビンゴカードを配付し，数字を入れさせる。
・２度目のビンゴを行い，早く上がった子供のカードを何枚か教材提示機に写し，その児童たちに共通していることに気付かせる。

## ４　学習の効果

・九九を毎時間唱えさせている。追い読み，交互読み，ペア読みなど，バリエーションを考えながら取り組んでいるが，ワンパターンになりがちになるし，九九を事前に覚えている子供にとっては暗唱に対するモチベーションが低くなりがちである。ビンゴというゲームの要素が入ることで，どの児童も意欲的に取り組むことができた。覚えにくく，意欲の停滞しがちな６，７，８の段においては子供たちにとってもよい刺激になった。

・活用例２においては，「早く上がるこつは？」と問いかけたときに，「答えがたくさんあるもの」ということに気づいた子供が３２名中，３名しかいなかった，それはこのビンゴを１回だけの実戦にしたことがなかなか子供の気づきにつながらなかったところであると思う。そこで，問いかけをした後に（もしくは最初の課題としてもよい）考える時間を作り，もう一度実践してみることで，児童の「なるほど」という思いにつながる。

**九九ビンゴをしよう**

| | | |
|---|---|---|
| | | |
| | | |
| | | |